

政府統計個票データレイアウト標準記法

政府統計における各種統計調査の個票データのレイアウト構造を示す符号表（以下単に「符号表」という。）は、以下に準拠して作成するものとする。

I 対象

本記法は、基幹統計調査及び一般統計調査の個票データ（調査票の回答内容を記録した電磁的記録（電子的方式、磁気的方式、その他人の知覚によっては認識することができない方式による記録をいう。))の符号表を対象とする。個票データのファイル形式は、固定長テキスト形式、CSV形式及びXML形式を前提とし、スプレッドシート、カンマ以外の区切り文字によってデータ項目を区切ったファイルについては、CSV形式に準ずるものとする。

なお、個票データのファイル形式が可変長テキスト形式の場合の符号表については、本記法の適用対象外とし、適宜、固定長テキスト形式及びCSV形式の個票データに係る符号表の記法に準じて作成するものとする。

II 符号表のファイル形式

符号表は、スプレッドシート又はCSV形式のファイルで作成するものとする。なお、CSV形式においては、次の仕様とする。

- ① 文字列引用符は用いない又は「"」（ダブルクォーテーション）を用いること。
- ② フィールド内にカンマ「,」が含まれている場合は「"」（ダブルクォーテーション）を引用符に用いること。
- ③ フィールド内に「"」（ダブルクォーテーション）を用いる必要がある場合は、「"」（ダブルクォーテーション）を二文字連続記入し、「""」と記入すること。
- ④ レコード区切りコードは、「0x0D」及び「0x0A」とすること（テキスト改行コード CR/LF とすること）。

III 符号表の記法

符号表は、ヘッダ一部及びデータ部による構成とし、それぞれ次に準拠して記述するものとする。

1 ヘッダ一部

ヘッダ一部は、当該個票データの基本情報を示す。

1-1 記載範囲

ヘッダー部は、第1行から第6行までに記載し、次表に掲げる基本項目について、各項目の名称及び内容を第1行第1列から第6行第2列までの範囲に記載する。その他の任意の項目（項目の名称は基本項目の名称と異なるものでなければならない。）について、必要に応じ、第3列以降の範囲に記載することができる。

基本項目名称	項目名称の記載位置	項目内容の記載位置	摘要
政府統計コード	第1行第1列	第1行第2列	
統計調査名	第2行第1列	第2行第2列	
調査票名	第3行第1列	第3行第2列	
コード体系	第4行第1列	第4行第2列	
レコード長	第5行第1列	第5行第2列	個票データが固定長テキスト形式の場合
項目総数	第5行第1列	第5行第2列	個票データがCSV形式の場合
レコード単位タグ	第5行第1列	第5行第2列	個票データがXML形式の場合
文字列引用符	第6行第1列	第6行第2列	個票データがCSV形式の場合
外部定義	第6行第1列	第6行第2列	個票データがXML形式の場合

1-2 基本項目の記法

基本項目は、次に準拠して記述するものとする。

① 政府統計コード

個票データに係る統計調査の政府統計コードを示す。

【記述上の注意】

・簡略コード（4桁）は用いず、半角英数字による8桁で記述すること。

【記述例】 00200330

② 統計調査名

個票データに係る統計調査の名称を示す。

【記述上の注意】

- ・左詰めで記述すること。

【記述例】 平成 17 年国勢調査

③ 調査票名

個票データに記録する調査票の名称を示す。

【記述上の注意】

- ・左詰めで記述すること。

【記述例】 国勢調査調査票

④ コード体系

個票データで採用する文字コードの体系を示す。

【記述上の注意】

- ・左詰めで記述すること。
- ・半角英数字で記述すること。
- ・次に該当する文字コードを採用している場合は、当該記述に従うこと。

UTF-8

UTF-16

Shift_JIS

EUC-JP

ISO-2022-JP

EBCDIC

ASCII

【記述例】 UTF-8

⑤ レコード長

個票データのファイル形式が固定長テキスト形式の場合における 1 レコード当たりの総バイト数を示す。

【記述上の注意】

- ・半角数字で記述すること。

【記述例】 300

⑥ 項目総数

個票データのファイル形式が CSV 形式の場合における 1 レコード当たりのデータ項目（個票データに記録する項目をいう。以下同じ。）の総数を示す。

【記述上の注意】

- ・半角数字で記述すること。

【記述例】 55

⑦ レコード単位タグ

個票データのファイル形式がXML形式の場合におけるレコード単位の区切りを表すXMLタグ（開始タグ）を示す。

【記述上の注意】

- ・左詰めで記述すること。
- ・タグに用いる記号の「<」及び「>」は、半角文字で記述すること。

【記述例】 <KOHYO>

⑧ 文字列引用符

個票データのファイル形式がCSV形式の場合においてデータ項目の値が文字列の場合に使用している引用符を示す。

【記述上の注意】

- ・左詰めで記述すること。
- ・引用符を用いていない場合は記述不要（空白とすること）。

【記述例】 ”

⑨ 外部定義

個票データのファイル形式がXML形式の場合でDTD、XML Schema 等によるデータ定義を当該個票データとは別に行っている外部ファイルの有無を示す。

【記述上の注意】

- ・個票データとは別の外部ファイルでDTD、XML Schema 等によるデータ定義を行っている場合は「有」と記述し、個票データ内部でデータ定義が完結している場合は「無」と記述すること。
- ・左詰めで記述すること。

【記述例】 無

【ヘッダ一部記載イメージ】

<個票データ：固定長テキスト形式>

政府統計コード	00200330	作成日	2005/12/1	訂正日	2006/6/3	ファイル名	JD3.RCD.KOJIN_kk
統計調査名	平成17年国勢調査	集計区分	第1次基本集計		(照会先等)		
調査票名	国勢調査調査票	(備考・補足事項)				〇〇省××局△△課□□係	
コード体系	EBCDIC	ファイル名の“kk”は、都道府県コード				TEL:03-xxxx-xxxx	
レコード長	300					FAX:03-yyyy-yyyy	

<個票データ：CSV形式>

政府統計コード	00200330	作成日	2005/12/1	訂正日	2006/6/3	ファイル名	PopulationCensus_1.csv
統計調査名	平成17年国勢調査	集計区分	第1次基本集計		(照会先等)		
調査票名	国勢調査調査票	(備考・補足事項)				〇〇省××局△△課□□係	
コード体系	UTF-8	ファイル名の“kk”は、都道府県コード				TEL:03-xxxx-xxxx	
項目総数	136					FAX:03-yyyy-yyyy	
文字列引用符	”						

<個票データ：XML形式>

政府統計コード	00200330	作成日	2005/12/1	訂正日	2006/6/3	ファイル名	PopulationCensus_1.xml
統計調査名	平成17年国勢調査	集計区分	第1次基本集計			(照会先等)	
調査票名	国勢調査調査票	(備考・補足事項)				〇〇省××局△△課□□係	
コード体系	UTF-8	ファイル名の“kk”は、都道府県コード				TEL:03-xxxx-xxxx	
レコード単位タグ	<KOHYO>					FAX:03-yyyy-yyyy	
外部定義	無						

2. データ部

データ部は、個票データに記録するデータのレイアウト構造を示す。

2-1 記載範囲

データ部は、第9行以降にデータ項目及びデータ項目を抽象化した項目（以下「抽象項目」という。）を項目ごとに行を分けて記述し、第8行にデータ項目及び抽象項目の属性を示す事項（以下単に「属性」という。）の名称を第2列以降に記述する。

データ部の行番号を第1列に、データ項目及び抽象項目の名称を第2列に、当該名称に係るデータ項目及び抽象項目の属性の値を第8行に記載する属性の名称に対応した列に記述する。

2-2 属性

データ部に記載するデータ項目及び抽象項目の属性を示す。次表に掲げる基本属性を個票データのファイル形式に応じて全角文字で記載する。その他の任意の属性（属性の名称は基本属性の名称と異なるものでなければならない。）について、必要に応じ、記載することができる。

基本属性及び任意の属性の列の位置は問わない。

基本属性名称	個票データのファイル形式			摘要
	固定長テキスト形式	CSV形式	XML形式	
行番号	○	○	○	
項目名	○	○	○	
XMLタグ	—	—	○	
階層	△	△	△	抽象項目を用いる場合及び複数のデータ

				項目の繰返しを包括的に示す場合に必須属性として用いる。
位置	○	—	—	
項目番号	▲	○	▲	
バイト数	○	▲	▲	
繰返し	△	△	△	一又は複数のデータ項目の繰返しを包括的に示す場合に必須属性として用いる。
配置	▲	▲	▲	
型	○	○	○	
小数点	△	△	△	データ値が符号以外の可変的な数値を示す項目でデータ値の小数部分を整数表記している場合に必須属性として用いる。
種別	○	○	○	
変数名	▲	▲	▲	
対象	▲	▲	▲	
符号	△	△	△	データ値に符号を用いる場合に必須属性として用いる。
符号内容	△	△	△	データ値に符号を用いる場合に必須属性として用いる。
備考	○	○	○	

- ：必須属性
- △：条件付必須属性
- ▲：任意属性
- －：不要属性

2-3 属性の記法

① 行番号

データ部を記述する符号表内の各行に係る行番号を示す。

【記述上の注意】

- ・第9行を「1」として第9行以下の行ごとに一連番号を半角数字で記述すること。

② 項目名

抽象項目及びデータ項目の名称を示す。

【記述上の注意】

- ・左詰めで記述すること。
- ・階層が「1」の項目については、他の階層が「1」の項目名と重複した名称を記述しないこと。
- ・予備の項目名は、半角英字（大文字）で「FILLER」と記述すること。
- ・符号が複数行になる場合、当該項目の符号を記述する最初の行のみに項目名を記述すること。

【記述例】 FILLER

③ XMLタグ

個票データにおいて用いている抽象項目及びデータ項目のXMLタグ（開始タグ）を示す。個票データのXML形式の場合に必須項目として記載する。

【記述上の注意】

- ・左詰めで記述すること。
- ・タグに用いる記号の「<」及び「>」は、半角文字で記述すること。
- ・個票データにおいてXMLタグが使用されていない抽象項目については、記述を要しない。

【記述例】

行番号	項目名	XMLタグ	
42	職員数	<SYOKUIN_NUM>	
43	男	<MAN>	
44	常用雇用者	<JOYO_KOYOSYA>	
45	正職員	<SEISYOKUIN>	
46	正職員以外	<SEISYOKUIN_IGAI>	
47	臨時雇用者	<RINJI_KOYOSYA>	

④ 階層

抽象項目及びデータ項目の階層構造を示す。データレイアウトにおいて視覚的にデータ部の項目の階層構造を示す場合及び複数のデータ項目の群の繰返しを包括的に示す場合に必須項目として用いる。

【記述上の注意】

- ・上位階層から順に1から始まる階層順位を当該項目の階層に応じて半角数字により記述する。

【記述例】

行番号	項目名	階層	
42	職員数	1	
43	男	2	
44	常用雇用者	3	
45	正職員	4	
46	正職員以外	4	
47	臨時雇用者	3	

⑤ 位置

データ項目に係る個票データのレコード上の読取開始位置（バイト数）を示す。個票データのファイル形式が固定長テキスト形式の場合に必須項目として記載する。

【記述上の注意】

- ・半角数字で記述すること。
- ・データ項目のみ記述し、抽象項目は記述しないこと。

【記述例】

行番号	項目名	階層	位置
42	職員数	1	
43	男	2	
44	常用雇用者	3	
45	正職員	4	70
46	正職員以外	4	76
47	臨時雇用者	3	82

⑥ 項目番号

データ項目について、同一レコード内に記録するデータ項目の掲載順位を一連番号で示す。個票データのファイル形式がCSV形式の場合に必須項目として記載する。

【記述上の注意】

- ・半角数字で記述すること。
- ・データ項目のみ記述し、抽象項目は記述しないこと。

【記述例】

行番号	項目名	階層	項目番号
42	職員数	1	
43	男	2	
44	常用雇用者	3	
45	正職員	4	31
46	正職員以外	4	32
47	臨時雇用者	3	33

⑦ バイト数

データ項目のバイト数を示す。個票データのファイル形式が固定長テキスト形式の場合に必須項目として記載する。CSV形式の場合に用いるときは、データ値の最大バイト数を記述する。

【記述上の注意】

- ・半角数字で記述すること。
- ・文字数ではなく、バイト数であることに留意すること。
- ・データ項目のみ記述し、抽象項目は記述しないこと。

【記述例】

行番号	項目名	階層	位置	バイト数
42	職員数	1		
43	男	2		
44	常用雇用者	3		
45	正職員	4	70	6
46	正職員以外	4	76	6
47	臨時雇用者	3	82	6

⑧ 繰返し

抽象項目の該当階層以下に含まれるデータ項目群（いわゆる配列構造のデータ項目）の繰返し数又はデータ項目の繰返し数を示す。複数のデータ項目の群を繰り返される場合であって、それらを包括的に表現するときに必須項目として用いる。

【記述上の注意】

- ・半角数字で記述すること。
- ・複数のデータ項目の群が繰り返される場合は、上位の抽象項目に当該繰返し数を記述すること。

【記述例】

行番号	項目名	階層	位置	バイト数	繰返し
83	現住所以外の所有宅地	2			3
84	所在地コード	3	81	5	
85	町丁字名・地番	3	86	22	
86	面積	3	108	8	

⑨ 配置

データ値がバイト数に満たない場合の配置を示す。

【記述上の注意】

- ・ 次の区分に応じ、半角数字で記述すること。
 - 1: 左詰め
 - 2: 右詰め
 - 3: 右詰め（余白は「0」（半角ゼロ）で補足）
- ・ データ項目のみ記述し、抽象項目は記述しないこと。

【記述例】

行番号	項目名	階層	位置	バイト数	繰返し	配置
193	集計用乗率	1				
194	建物用乗率	2	251	10		3
195	住宅用乗率	2	261	10		3
196	世帯用乗率	2	271	12		3

⑩ 型

データ値の型を示す。

【記述上の注意】

- ・ データ項目のみ記述し、抽象項目は記述しないこと。

<固定長テキスト形式及びCSV形式>

- ・ 次の区分に応じ、半角数字又は半角空白（スペース）で記述すること。なお、一部のレコードに「不詳」等を示す符号を用いる場合であっても、他のレコードに符号以外の可変的な値を有する項目については、次の「1」から「4」までに該当するものを記述すること。

- 1: データ値が符号以外の可変的な数値を示す項目
- 2: データ値が符号以外の可変的な文字列（1バイト文字）を含む項目
- 3: データ値が符号以外の可変的な文字列（2バイト文字（シフトコード無し））を含む項目
- 4: データ値が符号以外の可変的な文字列（2バイト文字（シフトコード有り））を含む項目

[空白]: データ値がすべて符号又は空白（スペース）の項目

<XML形式>

- ・ 個票データとは別の外部ファイルでDTD、XML Schema 等によるデータ定義を行っているときは、当該外部ファイル上で用いているデータ型を記述し、DTD、XML Schema 等によるデータ定義を行っている外部ファイルはなく、個票データ内で文字以外のデータを扱っているときは、次の区分に応じて記述すること。なお、一部のレコードに「不詳」等を示す符号を用いる場合であっても、他のレコードに符号、文字以外のデータを有する項目については、

データ型を記述すること。

L：長整数型（-9223372036854775808 ～ 9223372036854775807）の範囲の数値を含む項目

I：整数型（-2147483648 ～ 2147483647）の範囲の数値を含む項目

D：64ビット倍精度浮動小数点の数値を含む項目

[空白]：データ値がすべて符号、文字列又は空白（スペース）の項目

【記述例】

行番号	項目名	階層	位置	バイト数	繰返し	配置	型
193	集計用乗率	1					
194	建物用乗率	2	251	10		3 1	
195	住宅用乗率	2	261	10		3 1	
196	世帯用乗率	2	271	12		3 1	

⑪ 小数点

データ項目の「型」が「1」（データ値が符号以外の可変的な数値を示す項目）の場合であって、かつデータ値の小数部分を整数表記している場合における小数点以下の桁数を示す。

【記述上の注意】

- ・ 小数点以下の桁数を半角数字により記述すること。
- ・ データ項目のみ記述し、抽象項目は記述しないこと。

【記述例】

行番号	項目名	階層	位置	バイト数	繰返し	配置	型	小数点
193	集計用乗率	1						
194	建物用乗率	2	251	10		3 1		6
195	住宅用乗率	2	261	10		3 1		6
196	世帯用乗率	2	271	12		3 1		8

⑫ 種別

データ項目について、集計上、一般に取り扱われる種別を示す。

【記述上の注意】

- ・ 次の区分に応じ、半角数字又は半角空白（スペース）で記述すること。
 - 1：レコードを識別するユニークキーを構成する項目（複数の項目の組み合わせによりユニークキーとなる場合はこれらすべての項目が該当）
 - 2：乗率を示す項目
 - 3：ユニークキーを構成する項目、乗率を示す項目及び表章項目等の集計に用いられる項目以外の管理用項目、審査用項目その他の項目

[空白]：上記以外の集計に用いられる項目（調査項目、表章項目等）

- ・データ項目のみ記述し、抽象項目は記述しないこと。

【記述例】

行番号	項目名	階層	位置	バイト数	繰返し	配置	型	小数点	種別
193	集計用乗率	1							
194	建物用乗率	2	251	10		3 1		6	2
195	住宅用乗率	2	261	10		3 1		6	2
196	世帯用乗率	2	271	12		3 1		8	2

⑬ 変数名

統計表作成プログラムなどにおいて使用する変数名を示す。

【記述上の注意】

- ・変数名に使用できる文字の種類や長さは、各種のプログラム言語の制約に従うこと。
- ・データ項目のみ記述し、抽象項目は記述しないこと。

【記述例】

行番号	項目名	階層	位置	バイト数	型	種別	変数名
22	建物・住宅に関する事項	2					
23	住宅の種類	3	46	1			JUTAKU_KIND
24							
25							
26							

⑭ 対象

データ項目が存在するデータの範囲を示す。

【記述例】

行番号	項目名	階層	位置	バイト数	型	種別	変数名	対象
27	建物の階数	3	47	1			KATSUU	共同住宅 (JUTAKU_KIND="3")
28								
29								
30								
31								
32								

⑮ 符号

データ項目で用いられている符号のすべてを示す。「型」欄で「1」から「4」までに該当するデータ項目についても、当該データ項目で符号を一部のレコードについて用いている場合は、当該用いられている符号のすべてを示す。

データ値として用いる符号が多く、符号表内に列記することが適当ではないと判断される場合は、別のシート又は別のファイルとして記録し、符号表において参照するものとする。

【記述上の注意】

- ・ 符号は行を分けて記述し、符号間に空白行を挿入しないこと。
- ・ 符号として空白（スペース）を表現するときは、当該空白（スペース）が全角・半角のいずれの場合も「△」（全角文字）とし、複数の空白（スペース）を表現する場合は、当該空白（スペース）数分の「△」を記述すること。
- ・ 「不詳」を意味する符号は、「V」（半角大文字）とすること。なお、複数桁数の場合、桁数分「V」を記述することも可能とする。
- ・ データ値がすべて符号以外の可変的な値の場合は、無記入とすること。
- ・ データ値として用いる符号が多く、別のシート又は別のファイルを参照する場合は、「外部参照」と記述すること。
- ・ データ値として用いる符号が他のデータ項目と組み合わせて用いるコードの一部となっている場合、当該コードを構成する複数のデータ項目を包括する抽象項目を設け、当該抽象項目の「符号」に「外部参照」と記述し、別のシート又は別のファイルを参照すること。

【記述例】

行番号	項目名	階層	位置	バイト数	型	変数名	対象	符号
27	建物の階数	3	47	1		KAISUU	共同住宅 (JUTAKU_KIND="3")	1
28								2
29								3
30								4
31								5
32								△
84	所在地コード	3	81	5				外部参照
85	町丁字名・地番	3	86	22	5			
86	面積	3	108	8	1			VVVVVVVV

⑩ 符号内容

「符号」欄と対になる属性で、「符号」に列挙する各符号に対応する当該符号の意味・内容を示す。

【記述上の注意】

- ・ 対応する符号の行に当該符号の意味・内容を記述すること。
- ・ 外部参照の場合、参照先ファイルが符号表のファイルと同一フォルダに置かれることを前提として、又は参照先シートが符号表のファイル内の別シートであることを前提として、[ファイル名. 拡張子]. シート名 の形式で記述すること。この場合、参照先ファイルが一のシートのみで構成されているスプレッドシート又はCSVファイルのときは、「. シート名」は省略可能とする。また、参照先シートが同一ファイル内の別シートであるときは、「ファイル名. 拡張子」を省略し、[]. シート名 の形式での記述を可能とする。

【記述例】

行番号	項目名	階層	位置	バイト数	型	符号	符号内容
27	建物の階数	3	47	1	1		1・2階
28							3～5階
29							6～10階
30							11～14階
31							15階以上
32							対象外
84	所在地コード	3	81	5		外部参照	[]. 地域コード
85	町丁字名・地番	3	86	22	5		
86	面積	3	108	8	1	VVVVVVVV	不詳

⑰ 備考

各データ項目に係る属性の補足その他の留意すべき事項について示す。

【記述上の注意】

- ・データ値が数値である場合及び数値又は数値階級の符号である場合は、その単位を「単位：千円」の例に倣って記述すること。

【記述例】

行番号	項目名	階層	位置	バイト数	型	符号	符号内容	備考
27	建物の階数	3	47	1	1		1・2階	
28							3～5階	
29							6～10階	
30							11～14階	
31							15階以上	
32							対象外	
33	所在地コード	3	151	5		外部参照	[]. 地域コード	
34	町丁字名・地番	3	156	22	5			漢字10文字以内
35	面積	3	178	8	1	VVVVVVVV	不詳	単位：㎡

2-4 外部参照先

符号の外部参照先は、当該符号表のファイルと同一フォルダに置かれるスプレッドシート若しくはCSVファイル又は当該符号表のファイル（スプレッドシートに限る。）内の別シートとし、符号の外部参照を行うデータ項目1項目に当たり1ファイル又は1シートとする。

【記述上の注意】

- ・第1行から記述し、第1列に符号、第2列に符号内容を記述すること。なお、第3列以降は備考その他の任意の項目を記述することができる。
- ・上記にかかわらず、複数のデータ項目を包括する抽象項目において外部参照するときは、当該データ項目の順に第1列からデータ項目数の列までそれぞれ符号を記述し、次の列に符号内容を記述すること。
- ・符号は行を分けて記述すること。
- ・符号間に空白行を挿入しないこと。
- ・外部参照しないこと。

- ・ CSV形式の場合は、区切り文字を「,」（半角カンマ）とし、引用符は用いないこと。

【記述例】

（その１）一般的な外部参照先の記述例

01000	北海道	ほっかいどう		
01100	札幌市	さっぽろし		
01101	中央区	ちゅうおうく		
01102	北区	きたく		
01103	東区	ひがしく		
01104	白石区	しろいしく		
01105	豊平区	とよひらく		
01106	南区	みなみく		
01107	西区	にしく		
01108	厚別区	あつべつく		
01109	手稲区	ていねく		
01110	清田区	きよたく		
01202	函館市	はこだてし		
01203	小樽市	おたるし		

（その２）複数のデータ項目を包括する抽象項目において外部参照するときの外部参照先の記述例

<符号表>

行番号	項目名	階層	位置	バイト数	型	種別	変数名	符号	符号内容
12	地域コード	1						外部参照	[].地域コード
13	都道府県	2	25	2		1	KEN		
14	市区町村	2	27	3		1	CITY		

<外部参照先>

01		北海道	ほっかいどう		
01	100	札幌市	さっぽろし		
01	101	中央区	ちゅうおうく		
01	102	北区	きたく		
01	103	東区	ひがしく		
01	104	白石区	しろいしく		
01	105	豊平区	とよひらく		
01	106	南区	みなみく		
01	107	西区	にしく		
01	108	厚別区	あつべつく		
01	109	手稲区	ていねく		
01	110	清田区	きよたく		
01	202	函館市	はこだてし		
01	203	小樽市	おたるし		